



古文を読んでみよう

答え



さんすん
三寸ばかりなる人

おきな
竹取の翁
さぬきのみやつこ
(おじいさん)

※どれか一つだけでも、
すべて書いてもよい。

考え方

げんだい
現代の言葉に直したもの

今は昔、竹取の翁^{おきな}とよばれる者がいた。野山に分け入って竹を取り、(その竹を)いろいろな物を作るのに使っていた。名前をさぬきのみやつこといった。(ある日、)その竹林の中に、根元の光る竹が一本あった。不思議^{ふしぎ}に思って近づいて見ると、竹の筒^{つつ}の中が光っている。その中を見ると三寸(9cmほど)くらいの人が、とてもかわいらしい様子ですわっていた。